

神のミッションに生きる人

平野義和（ヒラノ商事株式会社）

田川理事長が木更津は矢那の森に学園建設の大事業を決意されたのは、理事長が五十歳を過ぎてからのことでありました。開校当初は全寮制で七十名ほどの生徒数であり、今思えば厳しい状況からのスタートであったことと思われまます。当社、ヒラノ商事は、校内の売店で夜食のパンや牛乳・飲料水、日用雑貨等を寮生に用意する仕事を学園よりいただきました。田川理事長は、当時は木更津の暁星国際学園と東京・九段の暁星学園の校長を兼務されており、まだ東京湾アクアラインも開通していない時代、毎日お忙しく木更津と東京を往復され、木更津のパーティリーに深夜近くにお戻りになっていらつしやったことを思い出します。

私が申し上げるまでもなく、田川理事長は人生を「学校教育」に捧げ、全身全霊を傾け、情

熱的に全てをかけてこられた先生です。カトリックの神父様であり、偉大な教育者です。私にとっては、近寄りがたい威厳のある理事長でした。

しかし、生徒さんたちと接している時の理事長は、とてもやさしく、思いやりと慈しみ、愛をもって接していらつしやいました。そんな理事長をお見かけするたび、厳しさの中に何か親しみのあるお人柄を感じておりました。

ある時のことです。頼まれ物をお届けする機会があり厨房にうかがうと、そこで田川理事長がお食事にお餅を食べていらつしやいました。

納品が終わり、帰ろうとすると、

「君も一つ食べていきなさい。」

と私に声をかけて下さり、一つどころか、二つ三つとごちそうになりました。

その時、何をお話したのか、緊張していたので覚えておりませんが、駆け出しの小さな取引業者にお声をかけていただいたことが、うれしいやら、ありがたいやら、光栄なこととして感激したことを憶えています。

二〇〇八年、暁星国際学園は創立三十周年を迎えられます。田川理事長を始め、先生方や事

務室の皆様や関係各位のご尽力により今日があるのだと思います。その中の田川理事長のご苦勞は想像を絶するものがあつたことと思います。

学校は厳然と存在し、またすでに各界で活躍する多くの素晴らしい卒業生を世の中に送りだしていらつしやいます。田川理事長が「世の中に貢献する人を育てる」学校教育を続けてこられたことは誠に偉大であり、まさに神のミッションに生きる信念の人と言えるのではないでしょううか。

そうしたお姿に、ただただ「尊敬」と「感謝」を表する次第です。今後もご健康に細心なるご注意を傾けられますよう。

暁星国際学園の更なるご発展を心よりお祈りしております。